



2012年12月3日

東京都副知事 秋山俊行 様

社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 左 知子
同 世田谷地域会 代表 小林正美



和田堀給水所1号・2号配水池と付属施設群の文化的価値保存等に関する要望書

拝啓 東京都におかれましては、日頃より都民の生存基盤である 安全・上質かつ安定した給水の維持にご尽力頂き、また駒沢給水所をはじめとした、近代化遺産としての水道施設の文化的な価値にも細やかなご配慮を賜り、心より敬意を表します。

さて先般、当協会の活動の一環として、貴庁の水道局建設部管路設計課にてヒアリングの機会を頂き、和田堀給水所の1号・2号両配水池の建替え更新計画の詳細を説明して頂きました。またこの計画の前提となる水道施設の安全度確保に関する考え方・施策につき、水道局の資料に解りやすく解説されているのを拝読しました。将来のあらゆる事態に備えて都民の給水を確保することの重大性は、当協会としても十分に納得するものです。

一方、和田堀給水所の1号・2号両配水池の持つ近代化遺産としての文化的・歴史的価値の大きさもまた、疑う余地がありません。この点は我々建築家の視点からもそうであるだけでなく、土木学会発表の「近代化遺産 2800 選」にも入っており、かつAランクに位置づけられていることから明らかです。

建築的視点からは特に、円形の平面を持つ1号配水池に、我が国の建築史上「分離派建築会」以降しばらく続いた表現主義的な潮流の影響が色濃く残されている点、そして水圧等に対する合理的な解決を企図しつつも建造物としての大胆な存在感の発現を意識したに違いない、その独特の平面・壁面形状と列柱の配置、屋上とその搭屋の工夫などに注目せざるを得ません。

そしてブウレーやルドゥ(*)などのフランス革命期の幻想的建築画との類同さえ感じられる、階段部やアーチの表情からは、当時、土木構造物の設計に協力参加するのが通例であった建築設計者の意匠上の思い入れが伝わり、近代化遺産としての希少性のみならず、建築意匠の面でも歴史的価値の高いものと観察されます。 <* 建築家 E.L.ブウレー (1728-99)、同 C.N.ルドゥ (1736-1806) >

さらに、世田谷区の街づくりにとっても、この給水所の持つ意味は、かけがえのないランドマークならびに緑の拠点という面、あるいは鉄道立体交差化などに連動した歩行者空間の確保や計画道路の沿道緑化といった様々な面があります。水道施設機能を拡充更新するだけでは、これらの地域的要請が果たせないことをご賢察頂けることと思います。

そこで、和田堀給水所の持つ上記の ①機能更新、②文化的価値の保存、③地域的な役割の向上、この ①②③ 全てをかなえる方途を、ぜひお考え頂き、各給水池を解体・更新するという既に公表された計画を見直しかつ修正して下さるよう、ここに切にお願い申し上げます。

なお、社団法人日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会、同 世田谷地域会は、和田堀給水所の文化的価値の保存や街づくりとの連動について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事をお伝えしたいと存じます。

敬具